

家畜衛生情報

つばき



季刊 第139号

令和4年 春号



長崎県の期待の星 真乃介、晴太郎
(P5.令和3年繁殖集計にて)

目次

- P.2…新年度挨拶
牛コロナウイルス病に注意しましょう!!
- P.3…家畜伝染性疾病の発生状況
- P.4…家畜伝染性疾病の発生状況(つづき)
令和3年度病性鑑定実施状況
- P.5…脱!暑熱ストレス!
令和3年繁殖集計
- P.6…全共について
令和4年度新体制

長崎県五島家畜保健衛生所
(五島振興局農林水産部家畜衛生課)

〒853-0031

長崎県五島市吉久木町725-3

TEL (0959)72-3379

FAX (0959)72-1023

E-mail s12230@pref.nagasaki.lg.jp



新 年 度 挨 拶

令和4年度の始まりにあたりご挨拶申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃から家畜衛生の推進や畜産振興にご理解ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、一昨年から引き続き新型コロナウイルスによるヒトの肺炎の流行により、人の移動の制限、各種イベントの中止、物流の停滞など経済活動が深刻な影響を受けています。畜産につきましてははしては、宴会や外食の減少による外食用食材の不振の一方で、家庭での巣籠り需要に伴うネット取り寄せ食材の増加など取り巻く環境が激変し将来の見通しが付きづらい状況となっています。

五島管内においては、肉用牛の増頭対策により肉用繁殖牛5,000頭飼養が達成され、今後は、家畜市場への出荷頭数を増やし、所得の向上を図っていくことが次のステップであると考えます。

家畜衛生面に目を向けますと、全国的に高病原性鳥インフルエンザが流行し、令和3年秋からのシーズンには22事例188万羽の発生が認められています。冬鳥の渡りは五月の連休ごろまで続きますので、引き続き防鳥ネットの整備をはじめとした飼養衛生管理基準の徹底が重要です。豚においては、令和3年度に豚熱が関東地方などで14事例確認され、また、野生イノシシにおける感染確認地域も山口県まで拡大してきています。県内では、豚流行性下痢の発生が確認されていますので、病原体の侵入防止対策に万全を期すようお願いいたします。そして、口蹄疫も、依然として近隣国で発生しており、今後も予断を許さない状況です。農家及び関係者の皆様におかれましては、疾病発生防止に引き続き努めていただくため、飼養衛生管理を徹底し、疾病の発生防止に一丸となって取り組んでいきましょう。

家畜保健衛生所は、現場に出向き、現場の課題を見出し、解決策を関係機関と連携しながら実行し、畜産農家の所得の向上及び安全・安心な畜産物の供給に貢献したいと考えておりますので、引き続き皆様方のご協力をお願い申し上げます。

五島家畜保健衛生所 所長 元村 泰彦

牛コロナウイルス病に注意しましょう！

今年2月、管内で牛コロナウイルス病の流行が確認されました。本疾病は子牛のみならず成牛でも下痢や呼吸器症状を呈します。成牛の場合、下痢に血液を混じることがあります。寒冷期（冬～春先）に好発し、急速に牛群全体に拡がります。

対策として、長靴・作業着等の交換・消毒、作業工程の見直し（症状を呈していない牛舎から作業を行うなど）などが挙げられます。また、観察を徹底し、異常牛発見の際は早めに獣医師へ連絡をお願いします。ワクチンも市販されていますので、必要があれば接種を検討ください。

日頃から農場内への病原体の侵入を防止するため、飼養衛生管理基準の遵守をお願いします。



写真：血液が混じった下痢便（成牛）



写真：下痢、元気消失、被毛粗剛が見られる（子牛）

引用：獣医感染症カラーアトラス

家畜伝染性疾病の発生状況

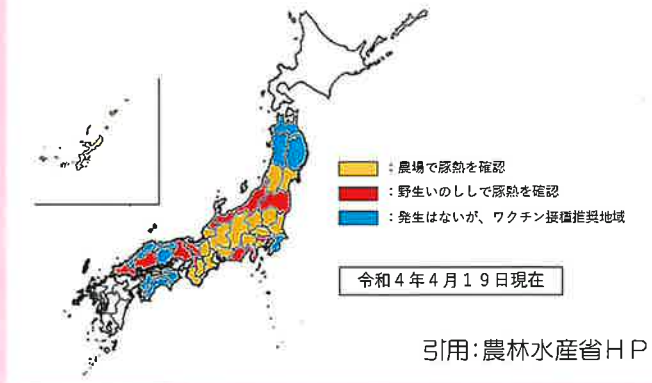
豚熱(CSF)

【侵入リスクが高まっています!】

CSFは、令和4年4月19日現在、17県79件の発生が確認されています。また、野生イノシシのCSF発生地域は、3月発生 of 山口県・広島県を含めた27都府県となり、本県への侵入リスクが一層高まりました。

イノシシの遠泳能力や春から活動的になる習性から、引き続き注意が必要です。

豚熱 (CSF) 発生状況



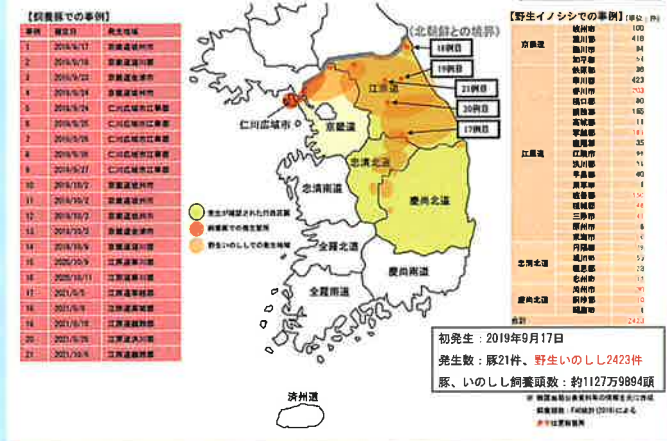
アフリカ豚熱(ASF)

【国内への侵入リスクが高まっています!】

ASFは、国内での発生はありませんが、近隣諸国で発生が続いています。特に本県と地理的に近い韓国では、野生イノシシの陽性事例が確認された地域が北部から中部へ拡大しており、我が国に近付いているといえます。

今後、新型コロナウイルス感染症による人や物の交流制限が緩和されることで、ウイルスが国内の農場に侵入するリスクが高まるため、農場へウイルスを侵入させないよう最大限の警戒が必要です。

韓国におけるアフリカ豚熱の発生状況



農場での発生予防のために飼養衛生管理基準の遵守をお願いします

飼養衛生管理基準の遵守は、CSFやASFなどの家畜伝染性疾病の予防に重要です。国の疫学調査では、CSF発生農場での飼養衛生管理基準の不備を指摘しています。今一度再確認をお願いします。

- 立入記録簿（消毒の有無等）の記入・保管
- 衛生管理区域に立入る者の手指の消毒
- 衛生管理区域専用の衣服・靴の設置及び使用
- 衛生管理区域に立入る車両の消毒
- 畜舎に立入る者の手指の消毒
- 畜舎専用の衣服・靴の設置及び使用
- 従事する従業員への情報伝達



専用衣服・靴の設置・使用



立入記録簿の記入・保管



手指の消毒



車両消毒

引用: 一部写真は農林水産省HP

県内で豚流行性下痢(PED)が確認されました

今年1月、県内の養豚農場において、PEDが確認されました。PEDは水様性下痢等の症状を示し、特に哺乳豚では死亡率が高いウイルス性疾病です。

①飼養衛生管理の徹底、②ワクチン接種、③まん延防止のための早期通報の徹底、④と畜場等畜産関係施設での防疫措置の徹底を図り、農場内にウイルスが侵入しないよう努めてください。



引用: 農研機構動物衛生研究部門HP

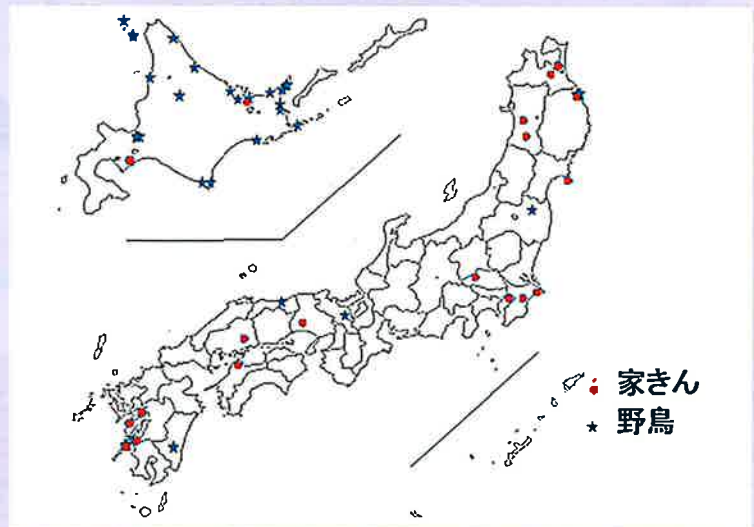
高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)

令和4年4月21日現在、12道県22事例の発生が確認され、約188万羽が防疫措置の対象となりました。野鳥の報告事例は7道府県83事例で確認され、特にハシブトガラスについては49事例と多く確認されています。陽性報告事例は北海道・東北に集中していますが、HPA Iウイルスは野鳥により伝播することから本県の発生リスクも高いと考えられます。鶏舎や堆肥舎等に設置してある防鳥ネットが破損した場合には、迅速に修繕するなどの対応をお願いします。

また、ウイルスの亜型は、養鶏場で確認された1例目(秋田県)、3例目(鹿児島県)がH5N8亜型、それ以外の事例ではH5N1亜型でした。H5N1亜型は、現在、北米・欧州・アジアで相次いで確認されていて、来シーズンも大流行する可能性が高いと考えられます。引き続き対策の継続かつ強化をお願いします。



HPA I 発生状況



引用: 農林水産省HP

令和3年度病性鑑定実施状況

令和3年度に当所で実施した病性鑑定は242件(牛: 200件、豚: 6件、鶏: 30件、馬: 1件、みつばち: 5件)でした。主な診断名は下表のとおりです。

令和3年度の牛の病性鑑定では、子牛の第四胃疾患(潰瘍・破裂・穿孔)と診断された事例が7件あり、そのうち5件は気温が低下する10月以降で確認されたことから、子牛の第四胃疾患の一因に防寒対策不備が考えられました。冬を迎える前に、風が入りにくい保温された個室の確保、カウジャケットの着用等防寒対策を行い、子牛の事故防止に努めましょう。

畜種	主な診断名・検査内容(疑い事例含む)
牛	牛伝染性リンパ腫、牛コロナウイルス病、牛ロタウイルス病、ヒストフィルス・ソムニ感染症、誤嚥性肺炎、創傷性心嚢炎、腹膜炎、第四胃潰瘍・穿孔、牛クロストリジウム・パーフリングェンス感染症、牛大腸菌症、臍帯炎、膀胱破裂、牛のアルボウイルス感染症サーベイランス、牛伝染性リンパ腫抗体検査、ビタミン検査、代謝プロファイルテスト、水質検査
豚	ステージ別検査、オーエスキー病ウイルス抗体検査、PRRSウイルス抗体検査
鶏	鶏コクシジウム症、高病原性鳥インフルエンザウイルスモニタリング検査、ニューカッスル病ウイルス抗体検査
馬	クッシング症候群
みつばち	バロア症、腐蛆病検査

脱!暑熱ストレス!

暑熱ストレスは、増体量や肉質の低下、受胎率の低下、熱中症や免疫力の低下による疾病の発生や死亡頭羽数の増加等、生産性の低下を引き起こします。

特に、畜舎環境面からの対策は、風通しが悪い、西日が強く入り込む等、農場の立地特性を踏まえることが重要です。

家畜だけでなく、飼養管理者にも畜舎内で快適な作業ができる環境を目指しましょう。

畜舎環境面からの対策例

- ◇屋根・壁・床への断熱材の設置、散水・塗装
- ◇遮光ネットや植栽を利用した太陽光の遮断
- ◇換気扇や扇風機による換気
- ◇家畜への直接送風・散水



飼養管理面からの対策例

- ◇密飼の防止
- ◇こまめな清掃による糞尿からの病原体や熱源防除
- ◇新鮮で冷たい水の自由飲水
- ◇涼しい時間帯の飼料給与
- ◇良質で消化の良い飼料の給与
- ◇必要に応じたビタミン・ミネラルの給与



令和3年 繁殖集計より（凍結精液利用状況）

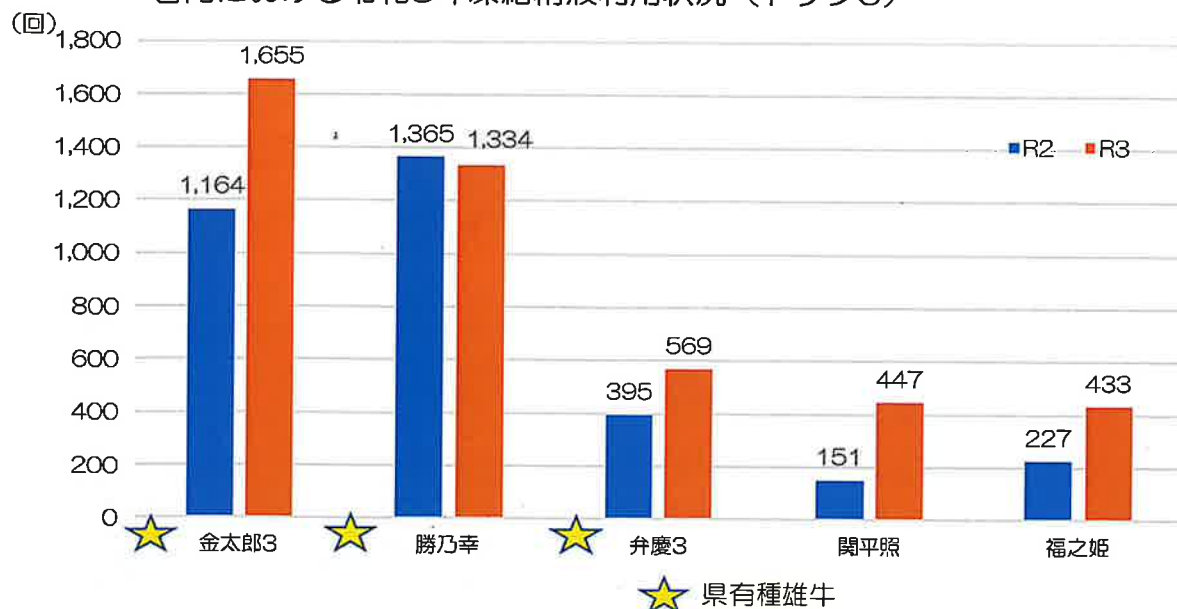
令和3年における管内の凍結精液利用回数は、県有種雄牛4,663回、県外3,367回でした。種雄牛別に見ると、トップ3はすべて県有種雄牛でした。昨年の利用回数第1位は「勝乃幸」でしたが、今年の利用回数第1位は「金太郎3」でした。

また、「晴太郎」や「晴久」、「真乃介」など現場後代検定で好成績を出した能力の高い県有種雄牛が揃ってきていますので、肥育農家に好まれる子牛や後継牛の生産にも、今後県有種雄牛を活用ください。

なお、長崎県基幹種雄牛の枝肉成績は長崎県肉用牛改良センターのホームページからご覧いただけますのでご活用下さい。



管内における令和3年凍結精液利用状況（トップ5）



鹿児島全共に向けた取組みについて

1. 肉牛の部

現在、候補牛は県内の肥育農家で飼育されていますが、概ね順調に増体しています。5月13日に開催される選抜会議で6区（弁慶3）、7区（勝乃幸）各10頭、8区（百合幸）約5頭に選抜され、8月10日の代表選考会で6区、7区は各3頭、8区は1頭の代表牛が決定します。

2. 種牛の部

現在、候補牛のリストアップを行っており、5月20日に五島地域の代表選考会を、7月6～7日に県代表選考会を開催することとなっています。今後、管内の候補牛を巡回して選考予定です。全共鹿児島大会で好成績を取めるため、皆様のご協力をお願いします。

令和4年度 五島家畜保健衛生所 新体制 ～よろしくお願ひします～

〈家畜衛生課〉

転入

所長（課長）
元村 泰彦



〈衛生班〉

専門幹
吉野 文彦

主任技師
牧野 央孝

獣医師
七島 琳

獣医師（会計年度任用職員）
木村 夏美

庶務（会計年度任用職員）
小林 菜津子

〈転出者挨拶〉 濱口 芳浩（畜産課へ異動）

4年間お世話になりました。後半の2年は新型コロナの影響で、顔を合わせて直接お話を聞く機会が減ってしまったことが残念でしたが、家畜伝染病の発生がなかったことに安堵しているところです。4月からは、長崎県全体を見ながら五島を応援していきますので、よろしくお願ひします。有難うございました。